



(1)(2)とも蘇民将来札である。(1)は大型の部類に属し、門戸に挿し立てるものと考えられ、(2)は小型で上部に左右からの切り込みがあることから、くくりつけて身につけるものとして使われたと推定できる。どちらも集落等で使用されていたものが流され、当地に埋没したものと考えられる。

なお、今回報告の木簡二点の釈文・内容及び図面精図については、勅元興寺文化財研究所人文考古学研究室藤澤典彦氏に依頼した、吹田市一九八九・九〇年度埋蔵文化財特殊鑑定調査による成果であり、藤澤氏から多くのご教示を賜わった。

9 関係文献

藤原 学「摂津豊島郡条里東限の発掘調査」(『日本考古学協会第四九回総会研究発表要旨』一九八三年)
(西本安秀)

広島県立歴史博物館編

『中世の民衆とまじない』

一九九〇年春に同館で行なわれた企画展「中世の民衆とまじない」の展示図録。木簡を始めとする出土資料、秘伝書などの文献史料、絵巻物などの絵画資料、そして民俗資料から、中世のまじないの世界の再現を試みる。呪符、御札の写真を多数掲載するほか、宮島新一・木下密雲氏の論考を付す。

B5判七二頁、定価一二〇〇円、送料二六〇円

一九九〇年一〇月、同館友の会再版

申込先 銀行振込、現金書留、または郵便小為替で直接同館友の会へ。

広島銀行福山駅前支店普通預金一一四五四五二、
広島県立歴史博物館友の会ミュージアムショップ

会長 村上 正名 宛